平成 25 年度事業計画

（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

当法人は、昭和 39 年 1 月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

平成 25 年度もその理念に基づき以下の事業を遂行する。また、平成 26 年は当法人設立 50 周年にあたり、今年度は禅文化賞の選考をはじめ関連事業を立案する。

Ⅰ．禅文化普及事業（公益目的事業）

〈1〉調査・研究活動

１．中国禅宗史・禅語録研究班

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行なわれている。

①唐代語録（『祖堂集』）研究会〔班長　西口芳男〕

『祖堂集』は『景徳伝灯録』の編集に先立つこと 52 年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に 40 年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』（国際禅学研究所報告第８冊、2003 年）として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

今年度は巻 10・鏡清和尚章第 14 則より始め、翠巌和尚、報恩和尚、化度和尚章を読み進める。隔週金曜日開催。

②「神会語録」研究会〔班長　西口芳男〕

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来の校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

今年度は『雑徴義』〔四二〕（三）「弟子無行の問い」より始め、第 51 段「康智圓の問い」までを読み進める予定。月 1 回開催。

③「景徳伝灯録」研究会〔班長　西口芳男〕

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全 30 巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

今年度は巻 16・楽普元安章の定稿化を進める。隔月 1 回開催。

④宋代禅語録勉強会〔幹事　藤田琢司〕

僧俗を問わず語録を読む楽しさを知ってもらうため、古来の禅僧や高徳の大夫等の逸話を集めた『林間録』をテキストに会読を進める。今年度も引続き巻下を読む。職員並びに宗門僧侶ら 10 名が参加し月 1 回開催。

２．禅宗経典研究班

禅文献に関わる経典類のうち、これまで未開のものについて独自の研究を進めると共に、臨済宗で常用される経典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。

①「楞伽経」研究会〔班長　常盤義伸（花園大学名誉教授）〕

禅文献と深い関わりをもつ『楞伽経』研究は、学界の未開分野とも言われ、長い間、十全な研究がなされてこなかったが、常盤義伸教授は、『楞伽経』四巻本を基に、南条文雄博士校訂梵文を再構成し、世界で初めて完全英訳・和訳を成し遂げた。

本研究会は、常盤教授を班長に、再構成梵文、漢訳とその訓読を改めて校訂し、英訳・和訳ともをチェックするものである。本年度は巻 3 第 100 段より始める。毎月第 4 月曜日に開催。

②臨済宗経典研究会〔班長　西村惠学〕

現代の臨済宗で常用されている経典について、その声明や経本を中心に整理し、現代人に受け入れやすいものを考え、一般に普及するような方策を考慮して制作する。

３．哲学研究班〔幹事　森　哲郎〕

今年度も哲学分野と大乗仏教の深甚な伝統との遭遇（現代での双方の意義）等を学ぶため、仏典研究会である「大蔵会」を年 4～5 回開催する。

研究会全体の指導には上田閑照先生、またテキスト講読指導には、小林圓照先生のご尽力をあおぎ、従来の仕方を継続する予定であるが、長年にわたり取り組んで来た「華厳五教章」の講読が次回で完了し、次々回からは世親の「唯識三十頌」の研究に取り組む予定である。

現在約 20 名の参加者は、大学教員、大学院卒業者である。若手の仏教専攻の研究者の大井和也氏がチューターとなり、テキストの解読・解釈を提示して、そのうえで狭義の学会を超えた現代世界での「仏教」（修行）の意義などをめぐって討議が重ねられている。会場としては芝蘭会館を使用している。

また、研究班の延長として上田閑照先生のご指導のもとに、西田哲学研究会では「自覚に於ける直観と反省」を次回で終了し「場所」関係の論文へ、また西谷研究会では「寒山詩」第二部「詩偈」を次回で終了し『禅の立場』へ進む計画があり、双方ともに今年度も年間４回の頻度で開催する予定である。

４．日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。班員は所員を中心としたメンバーで構成する。

①明庵栄西研究〔担当　藤田琢司〕

日本臨済宗の祖師である栄西禅師の著作の所在調査と収集作業を行ない、総合的な資料集として刊行する。前年度に引き他宗派及び大学・図書館・資料館等所蔵の資料の収集を継続し、出版に向けた翻刻・校訂・編集、また必要なものについては訓読などの作業を平行して行う予定である。平成 26 年 3 月に『栄西著作集』として刊行する。

②『寂室語録』研究　〔担当　能仁晃道〕

永源寺開山寂室元光の語録の解読および訓注・刊行を行なう。『永源開山寂室和尚語録』は南北朝期の漢詩文学の様相を伺うに足る希有な史料であるが、従来本格な検討がなされたことがなかった。今回の訓注は天台学・禅学双方に造詣の深い天台宗智教寺住職佐々木陵西師が中心となって作成作業を行なっていたが、佐々木氏が病気による長期療養のため、能仁が引き継ぐことになった。平成 28 年に『訓注寂室和尚語録(仮称)』として刊行する。

③『延宝伝灯録』研究〔担当　阿部理恵〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記『延宝伝灯録』（卍元師蛮撰述）の訓注作業を行なう。本書は江戸時代までの日本禅僧の伝記の集大成として位置づけることができるが、歴史学の成果に加えて難解な禅語の知識が不可欠であったため、従来訓読等が刊行されたことはなかった。現在、全文を読み下し文とし、注釈を付す作業を継続中である。

④『白隠』研究〔担当　芳澤勝弘〕

白隠禅師の語録『荊叢毒蘂』の訓読文および現代語訳、事項注釈について継続検討を行なう。また、『白隠年譜』について、新出資料を加えた年譜を作成するための研究を行なう。『荊叢毒蘂』、『白隠年譜』共に紙媒体だけでなく電子書籍化も行ない、平成 27 年～28 年の刊行を目指す。

５．マルチメディア研究班　〔班長　西村惠学〕

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。

今年度より、すでに絶版になってしまっている刊行物や、今後刊行する専門書を電子書籍化する方策も調えていく。

また、スマートフォンアプリ「京都禅寺巡り」のコンテンツ充実や春のスタンプラリーの追加、広報活動を行なうとともに、英語版制作の検討を行なう。

〈2〉資料収集・資料公開活動

１．デジタルアーカイブス

禅の文化として大切に遺されてきた書画を中心としたアーカイブを、劣化しないデジタルデータとして保存していくことを目的とする事業。一応のデータ収集までに概ね７年を目途として活動していく。昨年度は、建長寺所蔵宝物の主たるデータを入力した。

将来的には、以下のような事業を通して蓄積した画像と資料に基づいて、「禅文化財W

ＥＢ博物館」（仮称）を制作し、国内外にバーチャル博物館として、禅の文化財を紹介していく事業として展開したい。

①「禅の至宝」（文化財目録整備事業）

各派本山や、文化財を多数所蔵する由緒寺院の宝物を、保存性や再現性に優れた電子データで記録し利用するための「デジタルアーカイブ　禅の至宝」を、23 年度から運用開始。協力の得られた寺院に撮影に出向くなどして、絵画・墨蹟類を中心にデジタル写真に撮影しデータベースに保存する。また同時に、専門分野の学芸員に依頼してそれらデータの目録情報を入力していく。本年度は各派本山のほか、一般寺院什物データベースの利用寺院で許可を得られたものも追加登録していく。

②一般寺院什物データベース

①に該当しない一般寺院所蔵の宝物のデジタルアーカイブ整備事業として、簡易なデータベースを内部で開発構築し、当該寺院に絵画・墨蹟類などのデジタル写真での撮影と目録のデータベース化を推奨し、理解を得られた寺院のデータ入力を順次行なっていく。今年度は、山梨県恵林寺（妙心寺派）、岐阜大仙寺（妙心寺派）などのデータ入力を行なう。

２．資料の収集・整理・公開

①資料室所蔵品の整理・公開（利用）

当法人がこれまで収集してきた 37,000 点にのぼる文献資料のうち、未整理分 7,000 点について、新たに開発した資料管理ソフトを用いて順次入力してゆく。今後、オンライン蔵書検索への対応も検討する。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれているが、これらの閲覧は、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放する。

②ＷＥＢ版所蔵墨跡展

当法人が所蔵する書画を、ホームページ上でバーチャル墨跡展として随時公開する。

③禅文化研究所企画墨蹟展

禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行なう墨蹟展を花園大学と共同で開催する。今年度は、4 月 2 日より 6 月 8 日まで岐阜県・妙心寺派大仙寺所蔵墨蹟の展覧を行なう。

④黒豆データベース公開事業

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。また原文データベース以外に、基本的な文献の訓読データをもテキストデータベースとして登録していくように推進する。

⑤問い合わせに関する回答

資料の出典や解読等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無料で応じる。

３．Wikipedia のデータ修正・登録事業

インターネット上の電子辞書サイト(Wikipedia)の、禅や禅文化に関係する部分を見直し、データの修正や新規登録などを積極的に行なう。

〈3〉広報・普及活動

１．季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は、228 号～231 号を発行する。228 号は「建長寺」特集号、229 号は「大仙寺」小特集号として刊行する。

２．研究成果の刊行

〇中国禅宗史・語録研究班の成果

① 『禅文化研究所紀要 32 号』　（平成 25 年 9 月刊行）　電子書籍
② 『中国禅思想史』　伊吹敦　（平成 26 年 3 月刊行）

〇日本禅宗史・禅語録研究班の成果

① 『栄西禅師著作集』　藤田琢司　（平成 26 年 3 月刊行）
② 『夢中問答』　西村惠信　（平成 25 年秋刊行）

〇マルチメディア研究班の成果

① 2014 年禅語カレンダー（東嶺圓慈）
② 禅僧が語るシリーズ
③ 『聖域巡礼』　李　建華
④ 禅寺案内アプリに新たに、春のスタンプラリーを追加
⑤ 絶版刊行物を電子書籍として復刊。具体的には、無文全集第１～４冊に含まれる『碧巖録全提唱』、『小叢林略清規』（江湖叢書）、『馬祖の語録』（入矢義高編）などを予定。

３．公開講義「禅思想の諸問題」〔講師　西村惠信（所長・花園大学名誉教授）〕

所長による講義で、『増註 證道歌直截』二巻二冊（萬回一線撰）をテキストに禅の基本思想を平易に教える。一般社会人を対象に毎週火曜日 3 時から 5 時まで開催。

４．ホームページの運営とコンテンツの充実

①禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

ホームページのコンテンツ更新を行なっていく。また、Facebook や Twitter へも更新情報等シェアしている。

②臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨済禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行なう。

５．禅検定

禅思想やその歴史・文化に興味をもち学びたいと考える一般人に対して、基本的な事項を知るための教科書となるようなテキスト制作を検討推進し刊行するとともに、近い将来には社会的流行となっている検定形式をとった「禅検定」という検定試験を実施し、試験レベルに応じた「級」を認定していく。今年度は組織作りをはじめ、今後の運用について検討してゆく予定。

６．第 13 回東西霊性交流

禅僧とカトリック修道士との修行体験による交流を通して、禅とキリスト教の相互理解を深める。今回は９月にドイツで開催。臨済宗・曹洞宗より６名の禅僧（尼僧含む）を派遣予定。

７．公開講演会等

①公開講演会

企画墨蹟展公開中に記念講演会を開催する。今年度は５月と６月に講演会を予定している。また、花園大学と合同で専門道場師家を講師に一般を対象にした講演会を行なう。さらに、臨済宗寺院を会場にした講演会も開催する。

②禅と文化の旅

京都または地方の禅宗寺院や博物館等を訪れ、所長または他の講師による講演を含む禅文化に触れるバスツアーを行なう。

③教化・運営の実践講座

寺院の教化活動や運営などに役立つ実践的なセミナーを有料で年数回開講する（会場は京都）。僧侶・徒弟だけでなく一般も受講可能。講座内容として、「禅書道」・「毛筆基本講座」・「エンディングノート活用講座」・「正しい日本語の話し方」・「寺院の財務管理」・「デジタルメディア講座」・「（精進）料理教室」・「戒名の作り方（歴史・意義・実践）」・「墨蹟解読」・「引導の作り方」・「論理思考講座」・「漢文講座（5 回）」など。

８．広報・普及

研究成果としての刊行物を、各種媒体を通して広報し、直販、寺院売店、書店の各ルートを通じて普及促進する。また、メールマガジンの発行、Twitter や Facebook などを利用して、より広範囲に普及するよう努力する。

Ⅱ．収益・共益等事業

〈1〉ソフト開発・販売等事業

１．宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等と共に各地で行なわれる住職研修会での販売を積極的に行なう。最新の Windows8 にも既に対応済み。今年度より 2 年かけて「擔雪Ⅲ」へのバージョンアップのための開発に入る。

２．オーダー型宗務所管理システムの構築

①南禅寺派管理システムの機能追加

システムの追加要望の対応とその運用をサポートする。

②建長寺派管理システムの機能追加と運用サポート

システムの追加要望の対応とその運用をサポートする。

③曹洞宗宗務所管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートすると共に他の宗務所への営業を促進する。

④天龍寺派管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

⑤妙心寺派布教師会管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

３．宝物管理システムの販売

公益事業の一般寺院什物データベースと関連して展開する。一般寺院が個々に所蔵される宝物什物（軸物・仏像など）をデジタルアーカイブとしてデータベース管理できるようにソフトウェアを開発し販売する。

４．出版物頒布

他社から委託を受けた出版物をホームページやＤＭなどで案内し、頒布する。

〈2〉共益事業

１．大本山相国寺所蔵資料の整理等

『相国寺史』編纂の補佐（相国寺本山所蔵古文書）。また、同所に所蔵される資史料類について、適切な管理・保存および利用に向け、必要な体制整備に取り組む。

２．寺院委託出版

①『栄西』建仁寺版　宮脇隆平　（平成 26 年 3 月刊行）

②『虎渓山永保寺図録』（仮称）　(平成 26 年 3 月刊行）

３．引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した引導法語データベースについて、適宜、訓注の適用を行ない、データベースの補完をする。

４．臨黄合議所事務局

臨済宗・黄檗宗各本山の合議機関である臨黄合議所からの事務委託を行なう。

① 「臨黄会報」の発行(年 2 回)。

② 臨黄互助会の促進。

③ 臨黄教化研究会の実施。

④ 会議等の事務処理。

⑤ 臨済禅師 1150 年・白隠禅師 250 年遠諱事業の推進

→ 研究所として『臨済宗黄檗宗宗学概論(仮称)』を平成 27 年に発行する。

５．日中臨黄友好交流協会

中国仏教界との交流事業の推進。今年度は第 10 回日中禅僧交流を国内で実施予定。また、10 月に遠諱事業の一環として訪中団を組織して河北省臨済寺へ訪問する。